

OECD環境大臣会合
「環境とグローバルな競争力」

議長サマリー

2008年4月28、29日

議長であるイタリア並びに副議長であるデンマーク、日本、メキシコ、ポルトガル及び米国は、「環境とグローバルな競争力」のテーマの下に、2日間に渡って開催される2008年OECD環境大臣会合をリードする栄誉を得た。

大臣達は、活発で優れた議論を行った。彼らはOECD加盟国の貢献や加盟国同士の充実した対話を高く評価した。また、OECD加盟候補国（チリ、エストニア、イスラエル、スロベニア）や、主要なパートナー国（ブラジル、中国、インドネシア、南アフリカ）、利害関係者（産業会、労働組合、環境NGO）の意見を聞く機会が得られたことを高く評価した。

今後数十年の優先順位の設定

大臣達は、優先すべき環境課題が何であるかや、現在の経済状況及び生物多様性政策、気候変動政策等の政策から生じる課題や機会について議論を行った。また、グローバル化した世界において、いかにして競争力を確保しつつ環境に配慮できるかについて議論した。また、強力な経済成長と積極的な環境政策を統合し得た国々の経験を共有した。

大臣達は、先日出版されたOECD環境アウトルックで示された教訓と勧告に基づき、特に、「赤信号」が示された気候変動、生物多様性の喪失、水不足及び汚染による健康被害の4つの課題について、アウトルックに関するさらなる作業を行うことを支持した。アウトルックの経験に基づき、大臣達はOECD

Dに対し、「21世紀の2度目の10年の環境戦略」を更新するよう要求した。OECD加盟国における環境戦略の実施状況を継続的に評価するツールとして環境保全成果レビューの重要性を強調する意見もあった。

環境アウトルックが、環境政策の優先順位付けと再検討、例えば多くのコベネフィットを同時に実現する政策に焦点をあてることに役立ったとする発言もあった。アウトルックは、野心的な環境目標は達成可能であり実現可能であることを示した。

持続可能な消費と生産のパターンと、そのための教育の役割の重要性について強調する意見もあった。バイオ燃料を巡る現在の議論や、バイオ燃料の生産を持続可能なものにする必要性についても多くの言及がなされた。

資源効率性と物質フローは重要な課題であり、OECDはこれまで優れた取組を進めてきたが、この取組の継続が推奨された。大臣達は、最近承認された資源生産性の理事会勧告に留意し、これを歓迎した。

正しい政策を講じる

大臣達は、OECDの環境に関する作業、とりわけ、持続可能性の様々な側面の政策的政策や、政策ミックス、政策パッケージに焦点を当てたことを評価した。追加的な対策を施さないという選択肢を含め、OECDが具体的な政策オプションの費用や便益、効果に関するさらなる作業をすべきだとする提案もあった。

大臣達は、環境の質を高めるために、政府が正しい枠組みを整備し正しい政策を導入することが必要である旨を強調した。これらの政策と枠組みは、可能な限り経済的に効率的で、環境に対して効果的であるべきである。こうした文脈から、大臣達は、「効果的かつ効率的な環境政策のためのOECD枠組み」の出版を歓迎した。

OECDとパートナー国間の環境協力強化

今日我々が直面している環境課題に取り組むためには、国際協力の強化が必要である。OECD環境アウトルック2030が示しているように、現在のOECD加盟国間の協力だけでは、共通の環境目標を達成するには不十分である。OECD加盟国は、自らがリーダーシップを発揮することの必要性を認識している。しかし、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、インドネシア）のような新しく世界のアクターとなった国々は、経済的にも、環境面からも重要な役割を果たすようになってきており、OECD加盟国はこうした国々と協同するための新しい方法を見いだす必要がある。また我々は、開発途上国が環境面で持続可能な発展を成し遂げるために、開発途上国との協力を強化する必要性も認識している。このことは、天然資源への圧力を減らし、我々が共有する環境の汚染を防ぐ観点から、極めて重要である。環境協力と開発協力をよりうまく統合する必要性に関する指摘もあった。

大臣達は、気候変動対策における国際協力のための様々なアプローチについて議論した。一層の対話が必要なことは明白である。いくつかの問題については、今次会合の他のセッションで議論された。

大臣達と参加国の代表は、OECDに集い、意見を交換し共通のアプローチと課題について議論する機会を持てたことを歓迎した。次のような課題が強調された。

- 手頃で費用対効果の高い技術や技術情報の普及に対する障害や、より環境に配慮した技術の開発に対する障害を克服する必要性。
- 低炭素技術を含めた環境配慮技術への、特に民間部門の投資を、公的資金の役割を検証しつつ、刺激する必要性。

- 国際的に十分な財源を動員し開発途上国による地球環境問題への取組を支援すること。また、開発途上国が民間や国内、海外の資本を引きつけるため、環境プロジェクトに対する全国規模で市場ベースの資金システムを確立することを支援すること。
- グローバリゼーション、競争力、環境保護と飢餓のような問題との関わり、例えばバイオ燃料と食品価格高騰との関わりについて、理解を深める必要性
- 環境関連機関や、規制の施行や遵守、環境情報システム等による効果的な環境ガバナンスの必要性。また、経済的手法や、規制、自主的手法等の政策ミックスを最適化する必要性。
- 情報とベストプラクティスを広め、能力開発を支援する環境教育を推進する必要性

これらの取組は、OECD加盟国が様々な二国間関係を通じて取り組むことができるが、OECD自身は、環境に関する能力形成が最も必要なところでそれを進めるための議論と協力の場として、この分野を先導する重要な役割を担うことができることを、大臣達は認めた。この観点から、大臣達は、OECDが現加盟国と新興経済国間の環境協力を強化することを歓迎した。例えば、すでに中国とチリについて実行されたOECD環境保全成果レビューは、両国の環境政策と制度への理解を増進し、両国の環境政策の改善の過程を支援し、さらなる協力の基盤を強化してきたところである。

OECD理事会は、5カ国（チリ、エストニア、イスラエル、ロシア連邦、スロベニア）と加盟の議論を行うこと、他の5カ国（ブラジル、中国、インド、インドネシア、南アフリカ）及び東南アジア地域との関与拡大プログラムを進めることを決定している。この決定は、これらの国々がOECDの活動に直接

関わる機会を提供している。我々は、このことがOECD加盟国にとっても、パートナー諸国にとっても有益であると確信する。OECDは特に、我々が直面している主要な環境課題について、加盟国とパートナー盟国との「共通の語彙」を育む助けができるとの見解を示した大臣もあった。

大臣達は、環境の幅広い分野において能力開発するために、もっと効果的に協同作業する必要があることを認識した。2006年にはじめて開催されたOECD環境と開発大臣会合の第2回開催を支持する意見もあった。

大臣達は、OECD理事会勧告であるSAICMの実施に留意し、歓迎した。SAICMの決定は、効果的な化学物質管理のための能力開発と情報の共有という観点において、OECD加盟国が開発途上国と協力するための堅固な基礎を提供している。

競争力と気候変動政策

大臣達は、気候変動対策と低炭素社会への移行に関する取組は共通の課題であるが、低炭素社会への移行には大きな社会構造の転換が必要だということに留意した。こうした転換は、特定の産業、セクター、労働者に、新たな機会を提供すると同時に、競争力への課題（ただしこれは誇張されていることが多い）をも生み出す。もし強い国際協力と共通の政策枠組みが合意に達すれば、競争力への影響は、削減される可能性が高い。

大臣達は、競争力への影響とカーボンリーケージは、特に強い国際協力と共通のアプローチという文脈から取り扱われるべきだと強調した。気候変動に対応するためのいかなる政策も、既存の国際貿易のルールと密に連携し、相互支持の可能性を追求する必要がある。競争力の問題を助けるために、セクター別アプローチに注目した大臣達もいたが、他の大臣達は、そういったアプローチの有効性を不確かなものと見なした。

2013年以降の次期枠組みの設計において、カーボンリーケージ問題を回避できる具体的な手法に関して理解を深めるようOECDに要請する意見もあった。この分析は、鍵となる利用可能な政策オプションに関する議論を含むべきである。特に、セクター別アプローチに関する問題点や、セクター別アプローチが、炭素市場や技術の促進、目標等々といった一般的な政策枠組みの要素をいかに補完するかについて、分析すべきである。こうした分析は、2009年にコペンハーゲンで開催されるCOP15への価値あるインプットとなることから、2009年の中頃までには成果を出すべきである。

低炭素社会のためのエコイノベーションの促進

技術の発展は、緩和のための費用の削減に、直接的にも、また（環境面でのコベネフィットをもたらすことにより）間接的にも貢献する。また、技術の発展は、長期の成長や、雇用、エネルギー安全保障の面で、経済の競争力を維持することを助ける。環境技術産業は、大規模（かつ成長中の）ビジネスチャンスの象徴でもある。先発者の優位性が重要であろう。

大臣達は、産業界がエコイノベーションを牽引する中心的な役割を担うが、政府もまた長期的な投資を支持し、明確で継続的なシグナルを送ることが必要だということを強調した。消費者も、技術的な変革の発展と普及において鍵となる役割を果たすであろう。

政府は、技術進歩のための適切な枠組みを導入することによって、エコイノベーションに貢献することができる。こうした枠組みには、悪いものに課税し良い行動に見返りを与えるといった財政上のインセンティブを使うことを通じた共通の炭素価格の構築や、有望な低炭素技術を（一時的に）支援的するスキームの構築、先進的な基準の設定などが含まれることに留意すべきとする意見もあった。

大臣達は、政府全体を統合したアプローチが必要不可欠であることに同意した。技術的な進歩を達成するためには、中央政府は、政府を挙げて、例えば地域の経済主体と緊密に協力し作業する必要がある。特に、地方自治体と中小企業とが幅広く協同する多くの機会が存在する。教育や訓練、情報通信技術が気候変動に取り組むために助けとなりうる旨の提案もあった（例えば、「インターネット経済の未来」に関するOECD大臣会合でこうした課題のいくつかが議論される予定）。また、技術進歩のための枠組みは、他の分野（産業政策、都市計画、都市交通など）において鍵を握る政策目標を補完するものであるべきである。

OECDによるさらなる分析によって、環境技術の開発と普及の機会を生かすことができる具体的な国家政策を調査することができるであろう。また、OECDに対し、エネルギー価格と化石燃料への補助金との間の関係について一層の情報提供をするよう要請がなされた。

気候変動に関する2013年以降の国際的次期枠組みに向けて

大臣達は、トップダウンアプローチ（例えば、目標設定）とボトムアップアプローチ（技術の主流化）の両方を反映した、2013年以降の気候変動対策枠組みのための「責任のカスケード」の概念について議論した。我々は、2つのアプローチを収束させるよう作業する必要がある。

大臣達は、2013年以降の枠組みは、長期目標に関する共通のビジョン、先進国のための拘束力のある中期目標、技術移転の財政に対する計測・報告・検証可能な支援、開発途上国におけるベースラインを下回る検証可能な削減といった、幅広い要素を含む必要があることに留意した

表明された約束を責任を持って果たすよう、枠組みに参加するすべての国が、強いガバナンスを成文化し適用する必要があることを強調する意見もあった。

開かれた市場が保持されるべきということや、利用可能な市場メカニズム（例えば、炭素への明確な価格付け）を活用し民間と公的部門の貢献の間で正しいバランスをとる必要性が注目された。

大臣達は、低炭素技術の速やかな展開と移転を妨げている貿易障壁を特定し、理解し、削減する作業もまた続けられるべきであることを強調した。政府もまた、この課題に対する新技術への投資をもたらすために「障壁を越えるための資金提供」を行う重要な役割を果たすことができる。

最終的にどのようなものになろうと、気候変動に対する2013年以降の国際枠組みは、特に開発途上国への技術移転を促進させることで、低炭素技術の開発・展開・普及と実践に寄与するものである必要がある。

OECDは、クリーン技術の開発、展開、移転の促進のために必要な政策を含め、国際的な枠組みに含まれる諸政策のさらなる分析に貢献できる。この分析の対象には、地球規模の気候変動対応活動のための民間資金の拡充や、効果的な官民協力の形成、目標つきの技術開発の加速、貿易障壁の削減、能力開発、開発協力政策の役割の拡大といった政策が含まれる。こうした政策分析は、2009年にコペンハーゲンで開催されるCOP15への価値のあるインプットとなることから、2009年の中頃までには成果を出すべきである。

G8環境大臣会合とのリンク

今年のG8議長国として、日本は、この2日間の会議で大臣達が行った議論の主要メッセージを、G8環境会合に重要なインプットとして伝えることとした。G8環境大臣会合は5月末に神戸で開催される、生物多様性、3R（排出抑制、再使用、再生利用）、気候変動の3つのテーマが議論される予定である。国際的なフォーラムが連携することの重要性が高まっていることから、OECDとG8との結びつきを一層強化することが推奨された。資源生産性と競争力

に関するOECDの取り組みがその良い例として強調された。

大臣達は2012年までに次回会合を開くことを要請した。

付属文書

セッション4サマリー

&

2008年6月4、5日開催、OECD閣僚級会合へのメッセージ

2008年4月29日

意欲的な気候変動政策のための政府内協力強化

- OECD加盟国大臣は2008年4月28、29日に、加盟候補国（チリ、エストニア、イスラエル、スロベニア）、および関係強化国（ブラジル、中国、インドネシア、南ア）の環境大臣をオブザーバーに迎え、会合を開いた。参加者は、2つのセッションにおいて気候変動を焦点にあて、「環境とグローバルな競争力」について議論した。6月4、5日に開催されるOECD閣僚理事会に出席する財政、経済、貿易担当の大臣に、環境大臣達から伝えるべきメッセージが多く挙げられた。
- 大臣達は、気候変動は単に環境問題であるばかりでなく、主要な経済問題でもあることを強調した。気候変動対策は、持続可能な開発を成し遂げるために必要不可欠である。
- 多くの大臣は、気候変動について、緊急な行動が必要であり、全ての国がその取組を倍加させる必要性があることを強調した。野心的な中・長期目標の必要性が強調された。大臣達はUNFCCCの下策定されたバリ行動計画を推進することの重要性や、主要経済国会合やG8プロセスのような進行中の他のプロセスがこれに貢献する可能性について議論した。
- 大臣達は気候変動が全経済分野にわたる問題であることを認知した。多くの大臣は、スムーズな低炭素社会への移行を確実にするために政府全体が気候変動政策を主流化する必要性があることを強調した。多くの大臣は、

カーボンリーケージや気候変動対策に尽力する国々の競争力低下といったリスクはしばしば誇張されており、こうしたリスクは管理可能であると指摘した。大臣達は、いかなる気候変動政策も、国際的な貿易ルールに一致することが必要であり、気候変動政策と国際貿易ルールは相互支持的であることを指摘した。

- 環境大臣達は、気候変動対策を所管する大臣として、気候変動の緩和、影響への対応、適応、といった政策の実行に責任を有することが多い他の省庁（財務、経済、産業、農業、運輸、エネルギー、貿易、開発協力その他）と、どのようにしたら上手く調和し、協力できるかを議論した。包括的で、首尾一貫した、野心的な気候変動政策への全体的な責任は政府首脳にあると認識し、また彼らが益々この問題に取り組んでいることに留意した。
- 大臣達は全ての関係者が役割や責任を明確にすることが必要である旨を認識した。政府は民間部門による気候変動対策の取組を促進するための規制枠組みを提供する必要がある。地方政府や都市、産業界、市民社会が重要なパートナーとなる。大臣達は、特に地方政府や自治体の役割強化の可能性について議論した。
- 環境大臣達は、対策コストを取り扱いやすくするためキャップアンドトレードの枠組みや炭素税といった市場ベースの取組を強化する必要性を、財政、経済、貿易担当大臣達に対し強調するよう望んだ。また、グローバルな炭素価格の設定を推進することの重要性も指摘された。財政、経済、貿易担当大臣達は、特に課税、補助金、関税といった、財政的なインセンティブを正しく設定する責任がある。カーボンリーケージへの懸念対策といった、セクター別アプローチの潜在的役割も強調された。
- 大臣達は、特に開発途上国において、公的部門及び民間部門の資金が動員される必要があることや、一層の技術開発や迅速な普及を促すためにより

幅広い政策枠組みが整備される必要があることを認識した。財務大臣及び経済大臣達は、気候変動対策のための適切で、予測可能で、持続可能な財政枠組みの開発に重要な役割を果たすべきである。自動的に補充される国際的な財政支援メカニズムを開発する必要性も示唆された。最近の技術開発、技術移転のための国際提携や財政拠出の進展も指摘された。クリーン開発メカニズムの規模を拡大し強化する可能性についての言及もあった。

- 特に「先に行動した者」が優位となることによって、気候変動政策が競争上の優位性を得るのに役立つ可能性を強調する発言があった。更に、多くの大臣達は、気候変動に関して、「現状の延長」を続けることの負の結果に関して、行動しないことや「決定を下さない」ことのコストを強調した。OECD環境アウトルック2030に述べられているように、直接の利益とコベネフィットの両方を考慮すれば、野心的な気候変動政策は経済的に合理的である旨の指摘もあった。
- 大臣達は、2009年12月のUNFCCC COP15で合意を得る努力を助けることを含め、気候変動の経済的側面についてOECDがさらなる作業を行うことについて、幅広く考えを共有した。作業内容に対する提案の中には、効果的かつ低コストで気候変動に対処するためのポリシーミックスの分析、市場ベースのアプローチと炭素価格の役割の調査、カーボンリーケージと競争力に関する政策の効果、セクター別アプローチが経済全般にわたる行動を（代替でなく）補完する方法、行動しない場合のコスト（あるいは現状の延長を続ける場合のコスト）及び行動した場合の利益とコベネフィット、適応の公共政策全体および開発協力への統合、政策枠組みが財政拠出源と民間部門投資を結集し開発と技術の移転を促す方法といったものが含まれている。
- 2009年に環境、財政および経済担当大臣の会合を、おそらくOECD

閣僚理事会と連続して開催することを示唆する意見があった。